

がん化学療法科 ニュースレター

ほほえみ 第25号



今年も、あっという間に師走を迎え、ほほえみ読者の皆様も、お忙しい毎日を送られていることと存じます。昨年は、東日本大震災で、深く考える間もなく、一年が経ちましたが、今年も、何やら落ち着かないうちに時間だけが経過したように思います。昨年の年末年始を思い返すと、どことなく侘しげでした。今年は去年よりは、少しは普通の気持ちで迎えられそうな気がしています。

マギーズセンター

昨年から、がん哲学外来・メディカル・カフェに関わってきましたが、この他にも、いろいろな活動が国内で行われていますので、今回は主に「30年後の医療の姿を考える会」が取り組んでおられる、メディカル・タウンや、マギーズ・センターの話題と致します。

マギーズセンターは正式には、マギーズ・キャンサー・ケアリング・センターというのですが、故マギー・ケズウィック・ジェンクスさんと言う、一人の乳がんの患者さんの発案により作られました。一番最初のマギーズセンターは1997年に、スコットランドのエジンバラに作られています。ケアリング・センターというように、がんと診断された方に様々なサポートを行うための施設です。外見は、「これ何、ちょっと入ってみようか。」と思わせる、最先端的なデザインが取り入れられていることが多く、内部は家庭的な雰囲気を重視されています。建物のサイズでは、大き目の家か、ハウス・メーカーのモデルハウス位の大きさらしく、計10名弱の、サポート・スタッフ、臨床心理士等で運営されているようです。

イギリスらしく、ティーでも飲みながら、語り合う、相談する、気晴らしをする・・・という、ためだけに作られたもので、こういう施設が存在することが画期的ですね。マギーさんの夫のチャールズさんが、建築評論家ということで、建築デザインとしても秀逸です。今度、南ウエールズに建てられた、マギーズ・スウォンジーは、故黒川紀章氏の設計だそうです。設計は、著名な建築家のボランティアです。流石ですね。

コンセプトとしては、4つの柱があり、

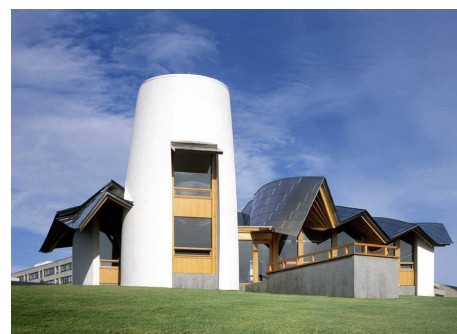
- ① 美術館のような場所 → 気分を高揚させてくれる場
 - ② 教会のような場所 → 深く考える場
 - ③ 病院のような場所 → 気持ちを楽にする場
 - ④ 家のような場所 → 帰ってきたいと思う場
- として、設計され、運営されています。

運営は、寄付により成り立っているというのも、特記すべきことの一つです。一箇所の運営に、年間25万ドルから35万ドル(3000万円程度)かかるらしいのですが、全額、寄付、イベントからの収益で賄っているのです。

日本でも、マギーズセンターが欲しいという声があり、実際に一箇所できれば、何箇所かできそうな気がしますが、ブレーク・スルーが必要と思われます。日本であれば、政治やマスコミの力に頼りがちなのですが、趣旨からすれば、是非、草の根の力で出来て欲しい気もします。スコットランドにできるなら、東北地方にもできるんじゃないかな。



マギーズ・スウォンジー外観



マギーズ・ダンディー外観



マギーズ・グラスゴー内部

東北地方に、がん医療水準の向上を

がん化学療法科 後期研修医 伊藤 祝栄

2012年11月3日、東北臨床腫瘍研究会(T-CORE)の報告会と第16回東北臨床腫瘍セミナーが山形で開催され参加してきました。T-COREとは、「東北地方のがん医療人教育と主にながながん薬物療法に関する臨床試験を通じたがん医療水準の向上を図る」組織とされています。秋田、岩手、山形、宮城、新潟にまたがった大きな規模となっています。

今回は報告会からの出席で、現在T-COREで実施されている臨床試験の進捗状況などの報告を受けました。その後、看護師や薬剤師などを含めたセミナーが開催されました。個人的には重粒子線治療の講演に非常に将来性を感じましたが、そのほか抗がん剤の副作用についても眼科、歯科口腔外科の医師から講演がありそちらも大変勉強になりました。

こういった勉強会はなかなか地方では開催されにくい現状があり、やはり東北の臨床腫瘍学教育は都市部に比べ遅れている現状があります。この状況を打破するために、東北地方ではT-COREが立ち上げられ、臨床研究や勉強会を行いがん医療水準の向上につなげようとしています。臨床試験も行われており、東北発の医療が世界へ発信されることも夢ではない時代です。ながなが書きましたが、今回のセミナーに参加することで診療のモチベーションを上げることができ、よい刺激になったと感じました。

新渡戸稲造記念 がん哲学外来

11月2日に、順天堂大学の樋野興夫先生をお迎えして、新渡戸稲造記念 がん哲学外来を行いました。当日は時間の関係で、4組の方が面談を受けられました。希望者が多く、抽選となったこととお詫び申し上げます。今回、「無頓着なほど大胆に」という言葉や、「主体的に隣人になる」という言葉を、使われることが多かったように思います。現時点では不定期の開催ですが、来年も、樋野先生のご都合を伺いながら、開催することができればと考えております。

(柏木哲夫・樋野興夫著 使命を生きるということ →)



今、ふたたび、新渡戸

11月22日に、東京・お茶の水で「今、ふたたび、新渡戸」というシンポジウムに参加してきました。放射線医学の大御所、長瀧重信先生をお迎えして、福島放射能の状況を専門的な立場から伺うことができました。簡単に言うと、原発の事故自体は重大でも、重大な被爆は起きていないということですが、専門的な見解はそうであっても、避難している人は大勢ある訳です。今のこの問題の現状は、事故の責任を誰も取っていない状況では、説明責任を果たせる人物がいないということでしょうか。私自身は、新渡戸稲造であれば、どうしただろうという視点で、お話をしましたが、終了後、野田村の支援を行っている方から、ご挨拶されて驚きました(加藤)。

MEMO

12月のがん化学療法科の予定

- | | |
|--------|---|
| 12月14日 | 柴田教授外来 |
| 12月15日 | がん学事始め 第2弾
～ 輪をもって尊しとなす 輪と和～
(秋田市にて、加藤が講演します) |
| 12月21日 | 新渡戸稲造記念 メディカル・カフェ |
| 12月25日 | クリスマス |
| 12月28日 | 柴田教授外来
御用おさめ |
| 1月2日 | 外来化学療法を行います。 |
| 1月4日 | 仕事始め |



今年は、どんな、プレゼントがもらえるかな。